

第38回京都府文化賞受賞者紹介

受賞者の特徴等	<p>○人権保障の意義の基礎理論的究明で研究水準の向上に画期的な貢献をした憲法学者の佐藤幸治氏、ピアニストで京都コンサートホール館長を務めた田隅靖子氏らが特別功労賞を受賞。</p> <p>○新たな戦国史観を提示するなど、優れた歴史小説を多数発表している直木賞作家の安部龍太郎氏、宋代の気風をたたえた表現性豊かな書を追求し、日本を代表する書家の一人に数えられる真神巍堂氏らが功労賞を受賞。</p> <p>○仏像に用いる截金技術で魅力的な工芸品や建築装飾を創作している江里朋子氏、古典演目に独自の解釈を加味し、現代劇の形で上演する木ノ下歌舞伎を主宰する木ノ下裕一氏らが奨励賞を受賞。</p>
---------	---

氏名		受賞者紹介	
特別功労賞	佐藤 幸治	憲法学者	日本国憲法の人権保障の意義を基礎理論的に究明し、学界の研究水準の向上に画期的な貢献。京都府等の情報公開・個人情報保護条例の制定・運用に関わり、司法制度改革審議会会長を務めるなど国の多くの審議会にも参画した。
	田隅 靖子	ピアニスト	ソロリサイタルや多彩な演奏家との共演で、多くの人を魅了。大学で後進の指導に当たった後、昨年5月まで京都コンサートホール館長を務め、ワンコインコンサートでクラシック音楽ファンの拡大にも尽力。現在も、現役のピアニストとして活躍。
	森 重文	数学者	代数幾何学において、高次元の図形を方程式で表し、端射線を用いた図形に変換する極小モデル理論を研究。3次元極小モデルの存在定理を確立し、フィールズ賞を受賞。京都大学高等研究院院長として、若手研究者の育成にも尽力。
	柳原 睦夫	陶芸家	大学教員として渡米し各地で講演や陶芸指導を行った経験から、現代美術や日米の陶芸を見つめ直し、独特の造形に金銀彩や鮮やかな多色文を使用した、時代へのメッセージを込めた存在感のある作品を制作し、国内外で高く評価されている。
功労賞	安部 龍太郎	歴史小説家	優れた歴史小説を多数執筆し、『等伯』で直木賞受賞。大航海時代で高度経済成長期でもあったという新たな戦国史観を背景に描く『家康』など、外交や交易・流通の視点から日本史の見直しを世に問う作品を発表。
	池田 亮司	現代美術家・作曲家	電子音楽作曲家・アーティストとして、ライブやインスタレーションを世界各地で発表。音そのものの持つ本質的な特性とその視覚化を数学的精度と徹底した美学で追求した作品は、高く評価されている。
	片桐 直樹	声楽家	バス、バリトン、コミカルな役からシリアスな役まで100以上の役を演じ、端正な音楽性の存在感のある多彩な役作りで定評がある。オラトリオ、宗教曲等のソリストとして著名指揮者やオーケストラとの共演も多く、バロックから現代まで幅広く活躍。
	高嶺 格	現代美術家・演出家	社会問題や集団による無意識の抑圧などを、自らの身体を使った表現で可視化。その表現は、映像インスタレーションから写真、彫刻、舞台作品の演出まで多岐にわたり、国内外で高く評価されている。
	西久松 吉雄	日本画家	「生活のある風景」を主なモチーフとし、山里や舟屋などを題材に、その地域の歴史や文化、生活を实景に投影しつつ画面を形成していくスケールが大きく力強い画風の作品が、高く評価されている。長年、教育者として後進の指導にも尽力。
	廣田 幸稔	能楽師 金剛流シテ方	3歳で初舞台を踏み、サッカーで鍛えた高い身体能力を生かして、芸の質が「軽い」という自身の特徴を出した魅力的な舞台を創り、高評価を得ている。「廣田鑑賞会」を主宰し、次世代の指導や能の普及にも尽力。
	真神 巍堂	書家	王羲之の格調高い気韻を基軸に、装飾性を抑えつつも宋代の気風をたたえた豊かな書風で、日本を代表する書家の一人に数えられる。書道界の要職を務め書文化の振興に尽力するとともに、大学教員として次世代の育成にも尽力。
松井 紫朗	彫刻家	自明だったはずの時間や空間を揺さぶり逆転し、異次元に誘い込まれるような感覚を与えることにより、見る人に新しい発見を呼び起こす「装置」としての作品が、国内外で高く評価されている。	
奨励賞	江里 朋子	截金作家	重要無形文化財保持者(人間国宝)だった母佐代子の技術を受け継ぎ、仏像や仏画の加飾荘厳として用いられる截金技術を工芸品や建築装飾に転用し、飾篭や茶器、欄間装飾など截金の可能性を広げる魅力的な作品を創作。
	木ノ下 裕一	補綴家・ドラマトルク	歌舞伎の演目を現代演劇にアレンジして上演する、木ノ下歌舞伎を主宰。古典演目を綿密にリサーチして現代的解釈を加味した台本を作成し、作品毎に選んだ演出家と協働で制作する木ノ下歌舞伎は、高く評価され、若い世代にも人気がある。
	笹岡 由梨子	現代美術家	絵画の手の痕跡のような「編集のノイズ」をあえて映像に残す、自ら「絵画軸映像」と呼ぶ独自のアプローチによる作品を制作。ドローイング、ペインティング、操り人形、演劇の実写などを駆使した映像インスタレーション作品が高く評価されている。
	平野 一郎	作曲家	丹後を起点に各地の祭礼や音楽を踏査し、日本の風土や伝承に根ざした交響曲やオペラなどの作品を発表。現実と幻想、現代と太古を融合させた独自の多彩な音楽世界が高く評価されている。
	松平 莉奈	画家	日本画の伝統に倣いつつ、現代性と普遍性を併せ持つ生彩豊かな人物画を中心に制作し、高く評価されてきた。平成30年には、日本最古の仏教説話集「日本霊異記」を題材に、物語を絵画化した一連の作品を発表し、注目されている。